

一八八三年六月十七日(日)

ドツキネーシヨル
南神村における聖ラーマクリシユナと信者たち

〔タントラ派の信者と世間——無執着でさえも恐ろしいもの〕

タクール、聖ラーマクリシユナは、ドツキネーシヨル南神寺院の自室で食後の小休息をとっておられる。アダルと校長が入ってきて御あいさつ申し上げた。タントラ派の一信者も来ている。ラカール、ハズラー、ラームラルたちはこのごろずっと、タクールのところに泊まっている。今日は日曜日、キリスト暦一八八三年六月十七日。アシャル月四日、ジョイスト白分十二日目。

聖ラーマクリシユナは信者たちに向かってお話しになる。

「世間において、神を悟れないことはないと思うがね？　けれど、大そう難しい。ジャナカ王のような人は智慧を獲てから世間で暮らした。それでも、世間は恐ろしいところだよ！　欲のなくなつた人にとつてさえ恐ろしいところだ。ジャナカはシヴァ派の女修行者(バイラヴィー)を見て顔をうつむけた。女を見るのに尻込みしたのだ。すると、その女修行者はこう言った。『ジャナカ！　あなたはまだ完全に智慧を身に付けていないと見えますね。あなたはまだ女と男の区別をする』と。

煤すすだらけの部屋に住んでいれば、どんなにうまく立ち廻っても少しづつ体に黒い汚れがついてくる

ものだよ。

見ていると、世間にいる信仰者というものは、絹の衣装など着て礼拝しているときは、なるほど、神々しい気分浸っている。だが、それは礼拝の後、お下がりをお口にすることを。それからあとは、また元通りの自分になる。またラジャサ的、タマス的な気持ちになつてしまふ。

サットヴァ性で信仰は生まれる。だが、信仰のサットヴァ、信仰のラジャサ、信仰のタマスがある。信仰のサットヴァ、つまり清浄無垢なサットヴァ性、これになれば、神様のこと以外には何も考えなくなる。生きていくのに必要なだけ肉体のことに気をつかうだけだ」

〔大覚者は三性を超越し、行為の結果を超越し、罪徳を超越す——ケーシヤブ・センと団体〕

「パラマハンサは三つの性を超越している。その人のなかに三性があるのだが、ないのだ。ちようど子供そっくりで、どの性にも支配されない。だから、小さい子供たちが大覚者のそばによくいるが、子供たちの気分を身につけるために近づけているのだよ。

大覚者はものを蓄めることができない。これは世俗の生活をしている人たちにはあてはまらないよ。家族を養うためには貯蓄する必要があるからね」

（原典註1）不動の信愛を持ってわたしに仕える者は

速やかに三性質をのり超えてブラフマンに到達するであろう —— ギーター 14・26 ——

タントラ派の信者「バラマハンサ大覚者には、罪と徳との感じがありますか？」

聖ラーマクリシュナ「ケーシヤブ・センもそのことを質問したつけ。わたしはこう言ったよ——『これ以上のことについて話したら、あんたは団体を維持していけなくなるよ』と。」

ケーシヤブは、『それでは、その辺までにしておいてください、先生』と言ったよ。

罪とか徳とかいうものは、どんなものかわかるかい？ バラマハンサ大覚者の境地から見れば、善い性質も悪い

性質も、両方ともあの御方がくだすったものだ。苦にがい実も甘い実もあるだろう？ 甘い実のなる木もあるし、苦い実や酸っぱい実がなる木もある。あの御方は甘いマンゴーの木もおつくりになるし、酢っぱいアムラの木もおつくりになる」

タントラ派の信者「まったく、仰せの通りでございます。丘の上からはバラ園が見えますし。見渡すかぎりのバラ園が——」

聖ラーマクリシュナ「こういったものが皆あるのが、あの御方の現象マヤのすばらしいところ、豊かなところなのだ、とバラマハンサ大覚者は観みている。真と偽、善と悪、罪と徳——みんな大そう深い意味のあることだね、これがわかってしまうと団体も組織もつづけて行けなくなる」

〔タントラ派の信者と行為の結果——罪と徳——罪と責任(Sin and Responsibility)〕

タントラ派の信者「ですが、行為の結果はさけられないと思えますが——」

聖ラーマクリシュナ「それもあるさ。善い行いをすれば良い実がなるし、悪い行いをすれば悪い実

がなる。コシヨーをなめればヒリヒリするだろう？　すべてみんな、あの御方の活動だ、遊びだよ」
「タントラ派の信者」それでは、私どもはどうすればよろしいのでしょうか？　行為の結果が必ずあ
るとしますと？」

聖ラーマクリシュナ「あつたつていいじゃないか。あの御方の信者は話が別だよ」
こうおっしゃって、歌をおうたいになった。

心よ　君は耕す術すべを知れ

人間という名の未墾の土地を

耕せばかぎりなく豊かに

こがね黄金なす実りを獲ん

カーリーの名の垣根めぐらして

無益の浪費ついでを防ぐべし

その垣根は黒髪のごと力強く

死の王(ヤマ)さえも傍に近けず

師グルの賜いし種を蒔きて

信仰の水をゆたかに注げ

心よ もしこのことが出来ぬとなら

ラームブラサードの詩に従いて行け

また――

死の来る道はふさがれ

心の怖れ 迷いは消え

わが家(肉体)の九つの戸口は

大神シヴァ自ら警護り給う

九つの戸口――眼・鼻・耳二つ、口・肛門・
生殖器一つ、計九つ

一本の柱にて家は支えられ

三本の網ヅにて固く締められ

頂上なる千弁の蓮座に

主は無畏を恵みて坐し給う

一本の柱――ブラフマン
三本の網――三性質トリグナの網

「カーシーでは、バラモンが死んでも、売春婦が死んでも、シヴァのところへ行く。

ハリの名やカーリーの名やラーマの名を聞いたとき、目から涙が出るようなら、もう毎日の礼拝やお守りを身につけたりする必要はない。しなければならぬ仕事は自然となくなっていく。行為の結果は、もうその人のところへは行かない」

タクールは再びおうたいになる――

深く想えば 愛は生まれ

愛深きほど源みなもとふかく

つかみて 信は ゆるぎなし

大実母おんはの足もと 甘露の海に

わが心 つねに浸りてあれば

礼拝、護摩、供物、すべて用なし

タクールは次におうたいになる――

朝、昼、晩にカーリーを呼べば

祈禱いのりも勤行つとめも要りはせぬ

勤行つとめはあの方の傍まで行くが

決して一体いっしょになりはせぬ

ガヤー ガンガー プラバースヤ

カーシー カーンチーに行かずとも

カーリー カーリー カーリーと呼んで

わたしや最期の息をひく

聖ラーマクリシュナ「あの御方に浸りきつていれば、もう虚偽うその考えや罪な考えは心の中に住んで
いられなくなる」

タントラ派の信者「あなた様は、明知ちしきの私わがは残っているとおっしゃいましたが——」

聖ラーマクリシュナ「明知の私、神の信者である私、神の召使めいしいである私——つまり、善いい私は残っ
ている。ナラス者の私わがは行つてしまつたよ。アッハッハッハ」

タントラ派の信者「わかりました。私わがどもが疑問に思つておりましたことが、ずいぶんはつきり
いたしました」

聖ラーマクリシュナ「真我アイトマンにアイトマン対面したら、すべての疑問はなくなるよ」

〔タントラの信仰者および信仰のタマス——あわれな連中の疑い——八つの超自然能力〕

「信仰のタマスを持って！ こう言え——『何だって？ ラーマの名を称えているんだ、カーリーの名を称えているんだ。この私が、今さら束縛されるなんて——。この私に、どうしても行為の結果がやってくるなんて——』」

タクールは再びおうたいになる——

ドウルガー、ドウルガーと御名よびて

われもしこの世を去るならば

いとあさましき身なれども

ついに神をば知るならん

牡牛や僧を手にかけて

胎児はらこを殺し 酒に酔い

かよわき女を 傷つけて

重ねし罪も わがこころ

つかの間さえも気にならず

大実母の御足にただすがるなり

聖ラーマクリシュナは繰り返しておっしゃる——

「信じること！ 信じること！ 信じること！ グルが教えて下さった——」ラーマがすべてのものになつていらつしやるのだ」と。ラーマはすべてに成り給う。ラーマは個々ひとひとりに宿り給う。小犬が、自分のルチ(揚げパン)を食べてしまった。信者はこう言う——「ラーマ！ ちょっと待って、待って下さい。ルチにバターを塗ってあげますから——」これほど、グルの言葉を信じているのだ。

つまらぬ哀れな連中は信じる事ができないんだ！ いつだつて疑っている！ 真我アトマン(自己の本性)と対面しなければ、疑いが全くなるといふわけにはいかな(意味注)がね。

純粹な信仰、何の欲もない信仰、こういう信仰を持つているとすぐに神様がつかめる。

アニマ(訳註)などの通力は——あれは皆、欲だよ。クリシュナがアルジュナにおっしゃつただろう——「弟よ、アニマなどの通力のうち、一つでも持つていたら神をつかむことはできない。少しばかり力シャクティを増やすことはできても」と

タントラ派の信者「タントラ派の祭儀は、最近効果があらわれないのですが、何故でございませうか？」

聖ラーマクリシュナ「全身全霊を打ち込んでやっていないから、信仰の誠が足りないから、それで効果がないんだよ」

そして、タクルルは結論としておっしゃった。

「一番大切なものは信仰だ。正しい信仰者にとつては、何一つ恐れることも悩むこともない。大実母がすべてを見そなわす。猫は、ネズミをくわえたときと、自分の仔をくわえたときとは、扱い方が全くちがう」

(原典註2) この高くしてしかも低きもの(梵を照観する時は、人の心臓の結節は断たれ、一切の疑團は解け、業因もまた亡ぶ。——ムンダカ・ウパニシャツド 2・2・8——)

(訳註) アニマ——八大通力(アシエタ・シッテイ)の一つ。八大通力には、次に示す八つがある。

- (一) アニマ——自分の体や何でも小さくする力 (五) プラープテイ——どこにでも瞬時に移動する力
- (二) マヒマ——自分の体や何でも大きくする力 (六) ヴァシットヴァ——何でも意のままに制御する力
- (三) ラギマ——自分の体や何でも軽くする力 (七) プラーカーミヤ——望むことを何でも実現する力
- (四) ガリマ——自分の体や何でも重くする力 (八) イシットヴァ——すべてのものの主となる力